



エビデンスデータを活用した 大学の研究戦略と図書館員

奈良先端科学技術大学院大学
学術情報課 前川敦子

atuko@ad.naist.jp

2010年11月26日(金)第12回図書館総合展

今日のアウトライン

1. NAISTについて
2. NAISTの研究評価
3. 研究評価と図書館員



1 NAISTについて

1. NAISTについて

- ◆ 奈良先端科学技術大学院大学 (NAIST)
NARA Institute of Science and Technology
- ◆ 1991年開学
- ◆ 奈良県生駒市(けいはんな学研都市高山地区)
- ◆ 3研究科 独立大学院
(情報科学・バイオサイエンス・物質創成科学)
- ◆ 教員210 職員150 学生1100
- ◆ チャレンジ志向 「常に最先端を」

「評価」からみたNAIST

◆ 「研究水準」「教育水準」ランキング 1位

『週刊東洋経済』2009年10月24日号
「特集/本当に強い大学2009」より

◆ 第1期中期目標期間 国立大学業務実績評価 1位 (2010年3月)

- 根拠は？（上位なら喜んでいいのか？）
- まず自機関の現状（＝「強み」と「弱み」）を知り
エビデンスに基づいた分析・発信が必要

「研究評価」をめぐる情勢

中央教育審議会

「国際的な大学評価活動に関するWG(2010.5)」

◆ 公表を望まれる項目

- 研究成果の生産性や水準

(論文数・論文被引用数、特許数、ベンチャーなどの指標)

◆ 必要な体制

- 全学的な体制整備
- 他大学等の情報を評価分析し自らの戦略を形成
- 調査分析・戦略的発信

2 NAISTの研究評価

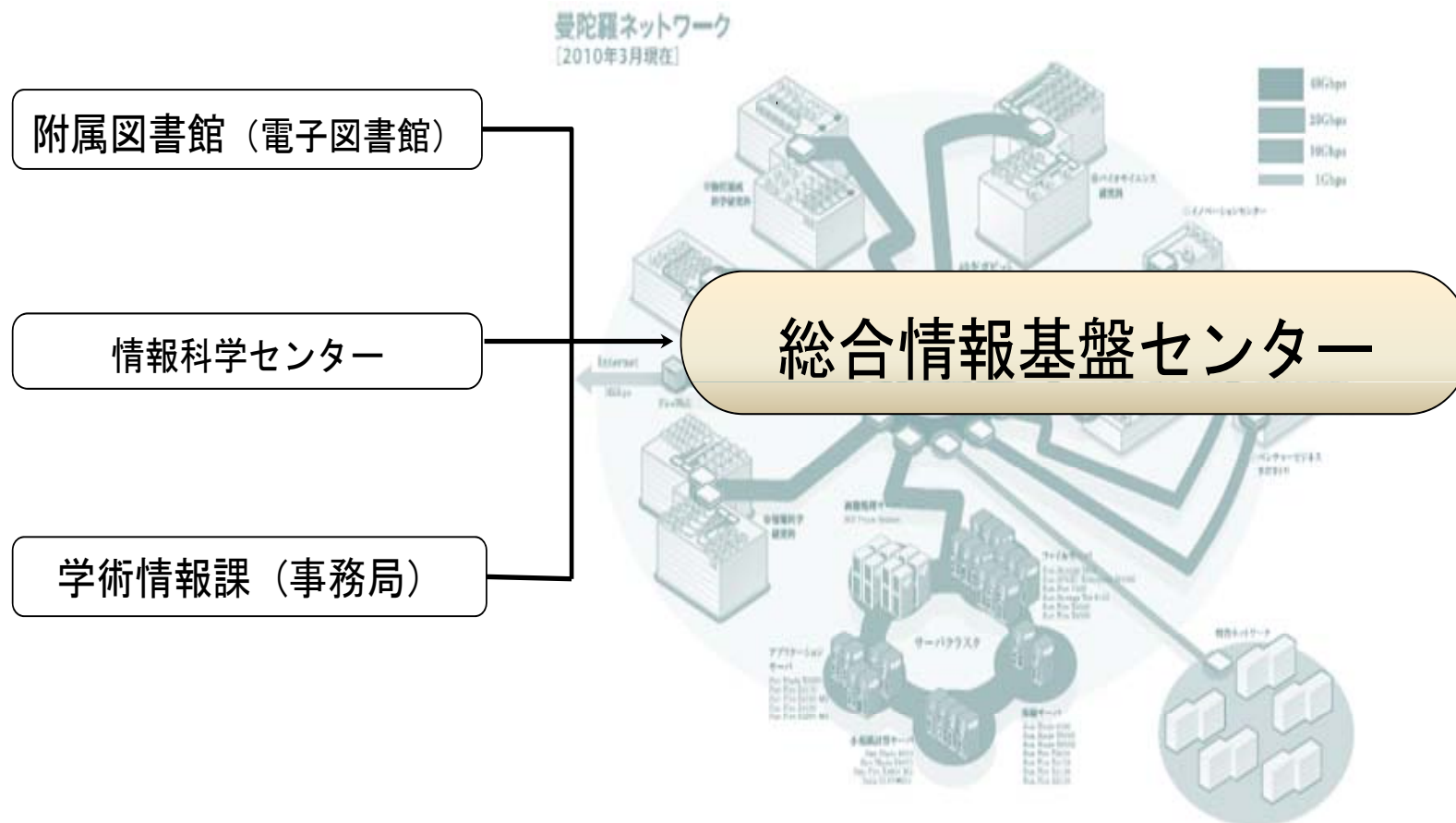
総合情報基盤センター

- ◆ 2010年7月 発足
- ◆ 研究部門/技術部門/事務部門の一体化
- ◆ 学術情報関連組織の統合による一元管理
- ◆ 図書館機能 → 3部門共同で支える

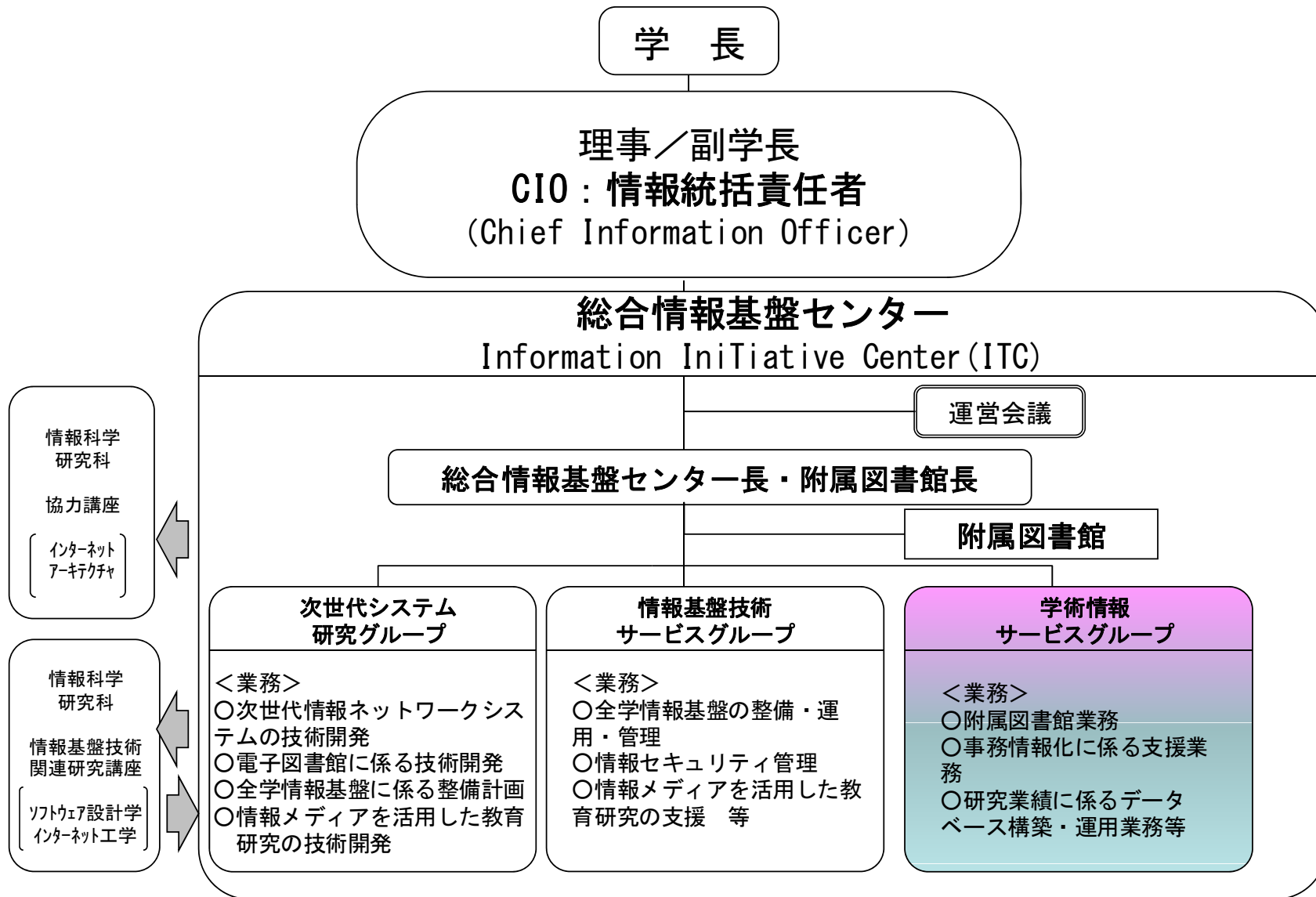
総合情報基盤センターの発足

【目的】

図書館機能を含め、情報基盤に関する一元管理及び次世代システムの研究開発を行うことにより、本学における高度情報基盤を構築し、もって最先端の教育研究活動を支援するとともに、情報ネットワーク社会の進展に貢献する。



総合情報基盤センターの組織体制



総合情報基盤センターの目的

- 学術情報関連組織の統合による一元管理
- 次世代システムの研究開発機能の強化
- コンピュータ・ネットワークシステム技術や電子図書館を活用した社会貢献の実現
- 新しい図書館の将来像の追求

「情報」という側面から
研究評価に関わる
(大学評価は総力戦)

総合情報マスタープラン

コンセプト

- 「知」の集約と「サービス」の集約を実現する情報基盤の構築
- NAISTのブランド力向上のための情報環境の整備
- “先端”的な“情報”集約・発信基盤の設計・運用

総合情報基盤の整備

- 学内情報基盤の一元化
- NAISTクラウド(仮称)の整備
- 次世代電子図書館システムの整備
- 学外ネットワーク接続の整備
- [研究戦略システム\(仮称\)](#)の整備

研究開発テーマ

- 全学統合認証基盤構築
- NAISTクラウド構築
- スマートグリッド・グリーンIT化
- 電子図書館の研究開発
- [研究戦略システム\(仮称\)](#)の研究開発

国際的な研究開発活動・

普及活動の推進

研究戦略システム(仮称)

- ◆ 研究業績データベースと
電子図書館システムを連携
- ◆ NAISTの研究成果を
発信／分析／戦略形成
- ✿ エビデンスデータベース
「視認度評価分析システム」
(NII平成20-21年度CSI委託事業 代表 信州大学)を拡張
多様な指標・エビデンスを取得・統合

大学／企業／官公庁／市民

Google・Yahoo!など

曼陀羅ネットワーク

アクセス

アクセス

研究業績管理DB

研究者ディレクトリ

・研究者情報・業績情報

情報開

業績データベース

・研究者プロフィール
・研究業績 (Paper, Product)
・外部資金
・知的財産 (Patent)
・受賞 (Award)
・社会活動
...

エビデンスデータベース

・時系列データベース
・学内生産研究業績評価分析ツール
...

アクセスコントロール

電子図書館システム

次世代統合検索システム

・ディスカバリインタフェース
・学内外学術情報資源へのナビゲート

機関リポジトリ

・学位論文
・授業アーカイブ
・科研費報告書
...

電子ジャーナル

IEEE, Nature, Elsevier, Wiley,
Springer, etc.

ISI Web of Knowledge

・Web of Science (WoS)
・Essential Science Indicators (ESI)
・Journal Citation Reports (JCR)
・ResearcherID

InCites

・研究評価ツール

アクセス

相互連携

リンク情報

リンク情報

エビデンスデータ

エビデンスデータ

データ更新
／
調査分析

調査
分析

曼陀羅ネットワーク

研究者／評価部門／研究戦略部門

研究戦略システム(仮称)

- 新システムと組織力・リーダーシップによる実施
- 大学・研究者自身の「研究戦略」への活用
 - 情報発信や業績評価を超えるものに
- 研究者のVisibility(視認性)最大化
 - 電子図書館システムとの連携
- 研究者の負担軽減

3 研究評価と図書館員

○図書館員の作業

◆ (前提) 各種DBの利用法、指標の意味を把握

データ収集能力

数値(指標)の正しい意味を説明できる能力

◆ 研究業績DBの文献データ整備

地道にWoSで確認 / 機関リポジトリコンテンツ収集と同時に

◆ NAISTの研究評価をリサーチ

ESI を使ったトップ1%論文、Hot Paper, リサーチフロント

国内他機関との比較

分野別被引用数、平均被引用数別国内順位 など...

→ もともと図書館員に適した業務では？

○図書館員が研究評価に関わる意味

- ◆ 研究評価とは

- 研究者の情報発信・成果アピールの援助

- 先生方に○×をつけるためのものではない

- ◆ 得られたエビデンス

- 研究者にとって自己アピールのツール

- 「先生方が元気になるものを」

- ◆ 大学経営にどう生かすかは経営者の判断

- ★ただし経営判断の一部に使われるものであることを自覚し、エビデンスとなりうるものを提供する必要

○ 今後の課題

◆ 論文数・被引用数では得られない研究活動

- 賞 / 学会発表 / 特許 / ベンチャー
- 日本語論文の扱い
- 国際交流・多様性・学部間の交流
- オリジナリティ 新たに研究されている分野
→ どのような指標が必要／可能なのか調査・情報収集

◆ 名寄せ(著者同定)

ResearcherID, ORCID などの動向に注目

◆ 分析・研究戦略に関する能力育成

ご清聴ありがとうございました